

## 写真展 「The secret 2016」

2016年 11月30日(水)～12月25日(日)

	タイトル/コメント	作家名(敬称略)	作品
1	早すぎた初雪 飛騨地方が紅葉のピークを迎えた11月中旬、前日から降り続いた初雪のお陰で、明朝は、黄紅葉に白い雪のとても魅力的な風景に出会うことができました。雪の重みで枝がしなり、「サー」と音を立て雪が落ちる瞬間を捉えました。	川隅功	
2	Late Lunch at Paros Island, Greece	塩澤一洋	
3	アフタヌーン つかの間の心地よい時間	こばやしかをる	
4	和 日本人の心に響く、『着物姿の女性』という雰囲気を狙いました。レトロな雰囲気と相まって、『和』を感じ取っていただければ幸いです。。。。。	藤城一朗	

NO WHERE,  
NOW HERE.

- 5 実際に存在する見慣れた景色は、フレームの中では違って見える。写真に収めてから、既になくなってしまった場所も、刹那に消えてしまった瞬間も、写真の中には確実に存在し続ける。  
NO WHERE,  
NOW HERE.

葛西亜理沙



- 6 Contrast #3

武藤裕也



Surface at Dusk

- 7 夕暮れ時の光は水面に反射し、空の青、雲の白、夕陽の赤が色の調子として現れる。水を媒介として色調は重なり溶け合うが、波のもつ運動性によって生じる影とともにそれらは文様となり、一瞬の光景として立ち現れる。その装飾された空間のような視覚体験から想起する記憶や感情と混ざり合うことで新たなイメージを発見し写真に定着する。

有地訓



青の記憶

- 8 水辺を覗き込むと、どこか非現実的な世界にタイムスリップ青い空の下、風をなびかせ自転車で走り回った、あのころ。自転車を小川のそばに乗り捨てて、夢中に蝶々を追いかけて、走り回ったっけ…。シャッターを押しながら、あのころの記憶を追いかけた。

山崎エリナ



- 9 Light Blue Light

安達ロベルト



【舟は運ぶ】

- 10 誰かがそこに座り  
誰かがそこで語り  
誰かがそこを見つめる。

まるやゆういち



- 魔女を撮り逃した夜
- 11 2014年冬のパリ。部屋が暑くなりすぎたので窓を開けたら、魔女が飛んでいるのが見えた。写真に撮ろうと頑張ったけど、写されたくないらしくヒラヒラとかわされた。結局は魔女を撮り逃してしまい翌朝は二日酔いだった。
- 阿部秀之
- 
- 神の子供たちは皆踊る
- 12 何かを解っているということ、それを目に見える形に変えていけるということはまた別の話だ。命より大切な何かがあるのだから、その命を粗末にすることなく大切なものを見つけ、探し、追い求めていこう。
- テラウチマサト
- 
- pluie de tricolore
- 13 旅先で、とても悲しく恐ろしいことが起こった。街のシンボルであるその塔はトリコロールを纏った。街の人々は屈せず、日常を過ごすことを努めた。雨がその強い光によって、よりはっきりと目に映った。
- 高倉大輔
- 
- しょうび静かに
- 14 華やかに薔薇が咲き誇る庭園に身を置く高揚感の中で、ひととき深紅の一輪に目が留まる。撮影者の気の高まりを、ただ静かに見つめるごとく咲く姿。何あれど花は穏やかにある。
- 浜崎さわこ
- 
- 15 Tokyo
- 岡本尚也
- 
- それぞれの二人
- 16 穏やかなボカボカ陽気の屋下がり。私の視線をふっと引き止めてくれたワンシーン。並んだベンチに座るそれぞれ二人の関係は??想像するだけでちょっと楽しい。わくわくシャッターボタンに指を伸ばしました。
- 佐藤仁重
- 

- フーコーの振り子
- 17 時間は流れて戻らないように思えるけれど、かつて撮影した写真を取り出すとふたたびそこから時間が始まるようにも思えてくる。フーコーの振り子のように、記憶の中で自分が行ったり来たりする。しかし振幅はいつしか方向を変えている。
- 飯田鉄
- 
- cherry tree
- 18 桜の樹シリーズ。綺麗な桜の花の中に枝を広げ堂々という樹がたくましく見え、私の視点は桜の幹しか写らなくなっていた。桜を撮るのって面白い、と初めて感じた瞬間だった。
- 佐藤倫子
- 
- Egret
- 19 都内の桜の名所として知られている神田川桜並木。桜が満開の時に川岸の遊歩道を歩いていると、桜の花と川面で羽を休める鷺、桜の花弁を散りばめた岩場のコントラストが美しい光景を写し出していました。
- 鈴木光雄
- 
- 緑映
- 20 湖の中の島は日当たりがよく、一足先に新緑の彩りとなって湖面を染め上げた。湖岸の木々は、一足遅れてようやく芽吹き段階である。些細な違いが大きな影響を受け、それがまた味わい深い旋律を生み出している。
- 鈴木一雄
- 
- 静寂
- 21 北アルプスに雪が降り始めた頃、わずかに霧氷が着き、冬の到来を告げていた。空のブルーを被って美しい色彩が得られる短時間に撮影した。
- 村田一朗
- 
- カラーホール
- 22 「写実とは、目の前にある対象を再現することでも模倣することでもなく、その対象のずっと奥にあるものと出会うこと」とある画家は述べているが、これは写真表現にも共通する言葉である。
- 野澤勝
- 

23 怒ねこ

渡辺達生



テツオ

24

すでに十年経つのか。三軒茶屋にほど近い鉄塔の撮影がその始まりだ。いつしか鉄塔を親愛の念を持ってテツオと呼んでいる。まだまだ追っかけては終わりそうにない。様々な光景をその姿と共に私に見せ続けるテツオ。力尽き果てるまで銀の粒子と共にその姿を捉え続けるのだ。映画「鉄塔武蔵野線」を時折思い出しながら。

伊藤之一



冬の光

25

この作品は、ポーランドのグディニアという小さな駅で撮影しました。もう16年前ですが、凜とした寒さと冬の光の美しさを良く覚えています。写真集「Winterlicht」にも使用した思い出のある1枚です。

中藤毅彦



26 St. Andrews

岡嶋和幸



27 東京, 2015

Misha Erwitt



28 植田 正治

赤城耕一



CUBA 2016

29

旅が好き。GRが好き。ましかくのフレーム、モノクロが好き。そんな、ぼくの大好きな気持ちギョッとおさまった1枚です。撮影地は2015年に米国と歴史的な国交正常化したばかりのキューバ。これからこういう風景はどんどん失われていくのかもしれない。

藤田一咲

